

## 校内授業研究会

(国語科・音楽科)

6月22日(月)に国語科・音楽科の校内授業研究会が行われました。今回は音楽科の共同研究者である鳥取大学の鈴木慎一郎先生に参加していただき、音楽の授業づくりについてお話をしていただきました。鑑賞の授業で効果的に教材を活用するには、教材を繰り返し同じ条件で視聴させないで、少しずつ変化をつけて視聴させること、またクイズ形式などを取り入れて、楽しい雰囲気を作り集中力を持続させることなどを教えていただきました。

国語・音楽の2つの授業ともに、活発に意見交換が行われ、今後の研究に生かせるアイデアもたくさん出されました。



### 《国語科》

国語科では、「共有学び」において、対話的な学びに取り組むことで子供の考えや学びが広がっていくのかを検証するために、5年生「物語の構成を考えて本の紹介をしよう」の学習を行いました。この学習では、教材文『世界でいちばんやかましい音』の学習から学んだ物語の4つの構成を考えながら各自が本紹介に取り組みました。

授業では、グループでの話し合いに時間がかかりました。子供たちは、友達の紹介する本について自分が未読のものでも、学習の手引きや既習事項と比べながら良い点やアドバイスを積極的に伝えていくことができました。しかし、本紹介のスタートに時間を要したグループがあったり、記録用のホワイトボードが使いにくかったりするなど、様々な課題も出てきました。今回の反

省を生かし、今後も対話的な学びを積極的に取り入れ、子供の考えや学びの広がりについての研究を進めていきます。



### 《音楽科》

今年度、音楽科の研究では、鑑賞の授業に焦点を置き、スピーカーから流れてくる音だけで授業をするのではなく、映像を活用し、より楽しい音楽体験を目指すとともに、映像があるからこそ気付けることを学びにつなげていきたいと考えています。今回の授業では、「アイネクライネナハトムジーク」を鑑賞しました。クラシック音楽を集中して鑑賞するという事は、なかなか大変なことです。曲を聴くためにはどのようなところに注目すればいいのでしょうか。今回の授業では、「音の重なり方」に注目しました。演奏で使用される弦楽器の音の重なり方について学び、どのようにその重なり方が変化するのか音楽を見て、聴いて考えました。子供たちは音だけでは分からなかったことを、映像からたくさん発見することができました。今後も音楽鑑賞の在り方を考えながら研究を進めていきたいと思



## 校内授業研究会

(社会科・道徳科)

6月29日(月)に社会科・道徳科の校内授業研究会が行われました。2つの研究授業とともに、3つの研究グループに分かれて具体的なテーマに沿って意見交換が行われました。今後の研究に生かせるアイデアもたくさん出されました。公開研究授業は7月までに5度実施され、全10授業について研究会をもちました。回を重ねるごとに、研究の方法や進め方について職員が考えを深めることができます。



### 《社会科》

3年生では、「わたしのまち みんなのまち」で、鳥取市の様子を学習しています。この日は、「鳥取市の公共施設がどこにあり、どのようなはたらきをしているのか」について学習しました。中でも学校図書館と市立中央図書館を比較することで、公共施設の役割やよさを考えました。

社会科では、教科書には載っていない教師が示した「プラス1」の資料や情報で、子供たちの意欲を高め、多面的な見方・考え方を引き出すことができるように取り組んでいます。今回は、学校図書館にない本を市立中央図書館の循環サービスで借りることができること知り、子供たちはとても驚いていました。そのほか、公共施設は、災害時には避難場所にもなることを知り、市民の安全を守る役割を担っていることも学びました。今後も子供たちが新たに気付いたり、より思考を深めたりできるよう、研究を重ねていきたいと思ひます。



### 《道徳科》

道徳の授業では、資料化された教材の中に現れる人物と出会い、その人物の考えや思い、生き方に子供が触れることとなります。これから生きる子供たちが、自分の将来に目を向け、生き方について考えるとき、「こうなりたい」という思いを致すのは、実際にそのような生き方をしている人物と出会い、その生き方に触れるときなのだと思います。そこで、今年度の道徳科では偉人について扱い、人物の生き方に触れる授業について提案したいと考えました。今回の授業では、自作した教材を扱いました。聖人になることを目指し、相手を愛し敬することの大切さを人々に説き、後に近江聖人と呼ばれるようになった人物、中江藤樹を教材にしたものです。

教材は2週間前に手渡し、時代背景を説明しながら読み聞かせました。また、感想を書かせたり藤樹について調べさせたりしました。そのためか、本時の授業では多くの子供が藤樹の生涯を捉え、その生き方のよさに触れ、自分の考えを伝える姿が見られました。また、藤樹との出会いからどのような学びがあったのかを尋ねることで、「自分もこうなりたい」と、将来の自分の姿を見つめ、生き方を考える様子が見られました。さらに子供たちが自分の考えを伝えあい、人物から学んだ生き方を自分の生き方に繋げられるよう、研究を重ねたいと思ひます。

